

議事要旨(1) 2013年12月会計基準アドバイザリー・フォーラム (ASAF) への対応について

冒頭、小賀坂副委員長より、2013年12月に開催されるASAF会議への対応計画について、説明資料[審議事項(1)-1]に基づき説明がなされた。続いて関口常勤委員、紙谷ディレクター及び神谷シニア・プロジェクト・マネージャーより、ASAF会議の議題である、概念フレームワークの純損益・OCI・測定 (ASBJが作成したアジェンダ・ペーパー)、負債 (豪州会計基準委員会が作成したアジェンダ・ペーパー)、並びに、説明責任及び財務報告の目的 (欧州財務報告諮問グループ (以下、「EFRAG」という。)) が作成したアジェンダ・ペーパー) について、説明資料[審議事項(1)-6]、[審議事項(1)-2]、及び、[審議事項(1)-3]に基づき詳細な説明がなされた。

説明に対する委員からの主な意見と、それらに対する事務局からのコメントは次のとおりである。

「純損益・OCI・測定」

- ある委員より、純損益は当期の業績を表す指標として株価の評価等に広く使われている一方、包括利益の当期の変動は重要視されていない。純損益と包括利益の双方を定義することが必要であり、純損益と包括利益の相違は本質的には時点の相違であることから、すべてリサイクリングすべきであるという意見が述べられた。
- ある委員より、純損益は必要ないという主張があることを念頭に、純損益と包括利益を対称的に定義していると考えられるが、第2章の純損益の特徴については、財務業績と不可逆な成果との関係性や、不可逆な成果の意味についての説明を補った方が良い、という意見が述べられた。
 - これに対して事務局からは、事務局も同様の認識であり、財務業績は純損益の定義よりも更に難しいため、純損益の特徴を説明し、2つの測定基礎の使い分けについて詳細に分析している旨説明された。「不可逆な成果」については、ASBJが従来主張している考え方の言い方を変えたもので、ASAF 会議では誤解されないように丁寧に説明したいとの回答がなされた。
- ある委員より、前向きな取組みに賛成するが、戦略的な目的で投資した資本性金融商品を売却した損益は、将来キャッシュ・フローの予測に目的適合的かどうか疑問があるとの発言がなされた。これに対して事務局からは、次のような回答がなされた。
 - 戦略的な目的で投資した資本性金融商品を売却した損益が持続可能な損益ではないことは明白であるが、我々は売却するまでの期の資本性金融商品の価格変動を純損益に反映させないことに焦点を当てており、すべての損益を当期純利益に含めるためには売却した期に損益が発生することになると考えている旨説明された。

「負債」

- ある委員より、この随時ペーパーで言及している現在価値ベースというのは、現在出口価格を意図しているのか、もしくは期待キャッシュ・フローの現在価値を示しているのか、という質問がなされた。続けて、現在価値ベースが現在出口価格を意図していたとした場合、第37項(a)で不履行リスクを含むとされているのは何を意図しているのか、という質問がなされた。
 - これに対して事務局からは、第37項(b)に記載のとおり、現在価額は市場参加者の観点から市場において決定された価格 (入口価格又は出口価格) とされていること、並びに、

不履行リスクについては、多くの場合において誰かの負債は誰かの資産であると記述されていることから、負債の価格は自己の信用リスクを含んだ資産の価格と同じになるべきであるということを含意していると思われ、また、負債のパラドクスについても概念的な根拠はないと主張されている、という回答がなされた。

「説明責任及び財務報告の目的」

- ある委員より、次のような見解が示された。
 - 受託責任は重要な概念であるが、現行の概念 FW では副次的な目的と読めるため、企業への将来の正味キャッシュ・インフローの見通しを評価するために役立つ情報とは別個の目的として明示するように主張した方が良いのではないかと。
 - 財務報告の目的として受託責任が明示されることは、ある期間の財務業績を示す純損益の重要性を主張する上でも効果的と考えられるのではないかと。
- また、別の委員より、次のような発言がなされた。
 - EFRAG の Bulletin に記載されているように目的別に2組の財務諸表を作成すべきという見解があることを勘案すると、ASAF 会議ではまず、受託責任 (Stewardship) 及び説明責任 (Accountability) が意図する内容についての共通認識が必要である旨を主張することが有用ではないかと。
 - スチュワードシップという用語は、経営者の株主に対する責任ではなく、機関投資家が資金の出し手である受益者に責任を果たすためにいかなる行動をすべきか、という意味で使用されることがあり、概念フレームワークで説明されている内容とは異なる意味で使用されているため、混乱を招く可能性があるのではないかと。

以上